

エコアクション21

環境経営レポート

ミヨシ精機工業株式会社

1. 組織の概要及び対象範囲	P.2
2. 実施体制	P.3
3. 環境経営方針	P.4
4. 環境経営目標	P.5
5. 環境経営計画	P.6
6. 環境経営目標の実績及び環境経営計画の取組結果、その 評価、並びに次年度の取組内容	P.7
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟等の有無	P.8
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	P.8

運用期間：2022年4月1日 ～ 2023年3月31日

発行日：2023年5月12日

1.組織の概要

・事業所名 ミヨシ精機工業株式会社

・代表者氏名 田中 謙一郎

・所在地 東京都練馬区上石神井4-10-39
長野県上田市塩川5103-3

・環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 小松 聖

担当者 柄澤 努

連絡先 長野丸子工場

TEL 0268-36-4600

FAX 0268-36-4601

E-mail s-asahina@miyosho.co.jp

・サイト名称及び所在地

本社 東京都練馬区上石神井4-10-39

長野丸子工場 長野県上田市塩川5103-3

・事業活動の内容

カメラ等の光学機器、複写機及びプリンター等のOA機器、自動車の
保安系部品等の精密さを要求される金属部品の加工製造。

・事業規模

売上 1,070,000千円

従業員 60 名

工場敷地(床面積)

本社 116.13m²

工場 2152.64m²

対象範囲(認証・登録範囲)

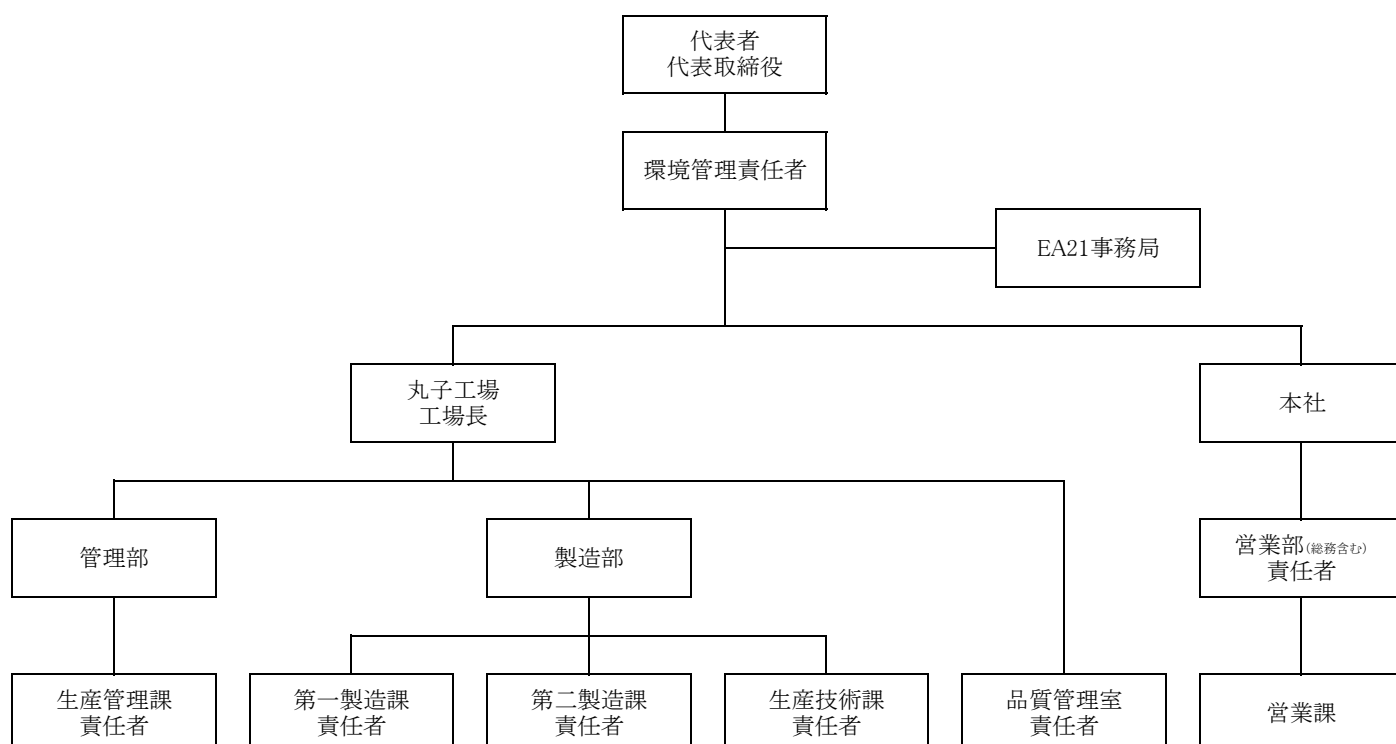
認証登録対象組織

本社、長野丸子工場

認証登録対象活動

カメラ等の光学機器、複写機及びプリンター等のOA機器、自動車の
保安系部品等の精密さを要求される金属部品の加工製造。

EA21役割責任体系図



	役割・責任・権限
代表者	1.環境管理責任者の任命 2.環境方針の策定、制定、周知 3.環境経営システムの実施及び、管理に必要な資源の準備 4.環境経営システムの定期的見直しの実施 5.社内情報の外部公開可否決定 6.環境レポートの承認 7.経営における課題とチャンスを整理し、明確にする
工場長	1.上記、代表者の補佐及び不在時の代理執行
環境管理責任者	1.環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 2.社長への環境経営システムの実施状況報告 3.EA21事務局との連携 4.各部門への環境教育の計画、実施 5.関連法規の取りまとめ表の承認 6.環境関連文書及び記録の承認
EA21事務局	1.環境管理責任者の補佐 2.環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 3.環境目標、環境活動計画書原案の作成 4.環境活動の実績集計、環境関連法規等取りまとめ表の作成 5.環境関連法規等、取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 6.環境関連の外部コミュニケーションの窓口、環境活動レポートの作成
部門責任者	1.自部門従事者に対して環境方針の周知、緊急事態に対する周知 2.関連する環境活動計画の実施、達成状況の報告 3.特定された項目の手順書作成及び、運用管理 4.自部門で想定された緊急事態への対応手順書作成、訓練の実施 5.自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
部門従事者	1.環境方針を理解し、部門の環境活動計画に従って行動する

環境経営方針

【企業理念】

当社は、地球環境保全の重要性を認識し、精密金属部品の製造を主とする事業活動を行う中で環境への配慮と環境汚染の予防に努め、地球にやさしい「ものづくり」に真摯に取り組み、地域だけではなく日本の未来の発展に寄与する企業として行動していきます。

【行動指針】

1. 環境負荷の低減を図るため、以下の活動に取り組みます。

(1) 省エネ（電気、燃料）を推進し

(2) 廃棄物の排出量を削減します。

二酸化炭素の排出量を削減します。

(SDGs 項目 12・14・15)



(3) 水の使用量を削減します。

(4) 化学物質を適正に管理します。

(SDGs 項目 6・14)

(SDGs 項目 4・12・14・15)



(5) グリーン購入を推進します。

(6) 5S 活動及び品質管理をリンクさせ、

(SDGs 項目 6・14)

環境に配慮した「ものづくり」を推進します。



2. EA21 環境経営システムを構築・運用し

3. 事業活動にあたっては環境関連法規等を

環境への取り組みを継続的に行います。

遵守します。



4. 環境経営方針はすべての従業員に周知します。



2020年3月25日

ミヨシ精機工業株式会社

田中 謙一郎

4.環境経営目標

※数値目標は売上按分にて集計

環境経営目標	基準(実績)		CO2換算係数	中期目標		
	2019年度			2021年度	2022年度	2023年度
	2019年4月～2020年3月			2021年4月～2022年3月	2022年4月～2023年3月	2023年4月～2024年3月
1. 二酸化炭素排出量の削減	7.312			0.5%削減 7.275	1%削減 7.239	1.5%削減 7.202
	kg-CO ₂ /10K円			kg-CO ₂ /10K円	kg-CO ₂ /10K円	kg-CO ₂ /10K円
1.1 電力使用量の削減	13.965			0.52%削減 13.892	1.05%削減 13.818	1.57%削減 13.745
	kWh/10K円			kWh/10K円	kWh/10K円	kWh/10K円
	6.982		0.500	6.946	6.909	6.873
	kg-CO ₂ /10K円			kg-CO ₂ /10K円	kg-CO ₂ /10K円	kg-CO ₂ /10K円
2.1 一般廃棄物排出量の削減	0.037			0.5%削減 0.037	1%削減 0.037	1.5%削減 0.036
	kg/10K円			kg/10K円	kg/10K円	kg/10K円
2.2 産業廃棄物排出量の削減	0.765			0.5%削減 0.761	1%削減 0.758	1.5%削減 0.754
	kg/10K円			kg/10K円	kg/10K円	kg/10K円
6.R社の客先クレーム件数低減	4			3	3	3
	件			件以下	件以下	件以下

注(1)基準年度購入電力のCO₂排出係数:0.500 kg-CO₂

注(2)産廃: 廃プラ、廃油(水溶性)、廃木、アルミスケール汚泥、研掃材モラダム～マニフェスト発行。

注(3)PRTR法に該当する化学物質は使用していません。

注(4)2020年度は新型コロナウイルス感染拡大により、変則的な生産稼働となり実績にバラツキがあった。

そのため、今回は2019年度を基準に削減目標を設定する。

注(5)項目6. R社の客先クレーム件数低減の基準については、2018年～2020年の平均数値で設定。

5.環境経営計画・実施状況評価

基準年度(基準値):2019年4月～2020年3月

年0.5%削減

□:計画 ■:実績 評価:達成○ 未達×

No.	中期目標 (2023年度)	2022年度目標	施策	責任者	2022年												合計	
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1	二酸化炭素排出量の削減(kg-CO2/10K円) ※売上按分 基準値:2019年度(通年) 7.312 2021年度から2023年度 1.5%削減 7.202	基準値 7.312kg/10K円 ↓ 1%削減 7.239kg/10K円	・1.1に記載	小松	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
					計画排出量	7.944	5.081	5.014	7.161	7.903	7.556	6.859	6.605	7.052	9.620	8.306	12.327	7.239
					実績排出量	1.590	1.617	1.369	1.370	1.670	1.430	1.416	1.242	4.933	7.272	6.951	7.415	3.154
					評価	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1.1	電力使用量の削減(kwh/10K円) ※売上按分 基準値:2019年度(通年) 13.965 2021年度から2023年度 1.57%削減 13.745	基準値 13.965kwh/10K円 ↓ 1.05%削減 13.818kwh/10K円	・圧縮エアーの漏れ点検 (5月、8月、12月) ・コンプレッサーの休日停止 (土曜日5時～月曜日6時) ・加工機を休日停止する為の 体制作り(オペレータ育成)	鈴木	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
					計画使用量	14.714	9.919	9.876	13.995	15.496	14.775	13.474	12.691	12.908	17.682	15.046	23.413	13.818
					実績使用量	14.227	15.134	12.680	12.798	15.580	13.550	12.919	11.650	10.200	13.720	13.068	14.234	5.080
					評価	○	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
2.1	一般廃棄物排出量の削減(kg/10K円) ※売上按分 基準値:2019年度(通年) 0.037 2021年度から2023年度 1.5%削減 0.036	基準値 0.037kg/10K円 ↓ 1%削減 0.037kg/10K円	・廃棄物の分別と確認 ・リサイクル化出来るもの検討 と運用 *注意喚起の表示を作成掲示 *機密文書の定義と処理方法を 再検討	朝比奈	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
					計画使用量	0.042	0.038	0.020	0.024	0.035	0.056	0.039	0.033	0.026	0.061	0.034	0.052	0.037
					実績使用量	0.030	0.025	0.035	0.020	0.025	0.035	0.024	0.020	0.025	0.030	0.018	0.034	0.026
					評価	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.2	産業廃棄物排出量の削減(kg/10K円) ※売上按分 基準値:2019年度(通年) 0.765 2021年度から2023年度 1.5%削減 0.754	基準値 0.765kg/10K円 ↓ 1%削減 0.758kg/10K円	・廃プラの産廃業者を変更し、 正確な排出重量を把握する。 (マニフェストは発行される が、分別を変えることで再利用 可能)	小松	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
					計画使用量	1.078	0.529	0.615	0.623	0.759	0.908	0.663	0.859	0.629	0.824	0.705	1.323	0.758
					実績使用量	0.537	0.337	0.501	0.177	0.472	0.489	0.413	0.482	0.574	0.429	0.432	1.159	0.494
					評価	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	R社クレーム件数低減(件数) 基準値:2018年度～2020年度平均 4 2021年度から通年 3件以下	基準値 4件 ↓ 3件以下	・工程内寸法チェックの強化 ※チェックシート作成 ・セルフチェック作業 ・セルフチェックポイントの標 準化	政木 金井 山寄	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
					計画件数	1以下	0以下	0以下	0以下	1以下	0以下	0以下	0以下	1以下	0以下	0以下	0以下	3以下
					実績件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					評価	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
NO.	評価・確認 月日	評価・確認者	評価・確認事項(定期・臨時)	コメント														

6.環境経営目標の実績及び環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

運用期間:2022年4月～2023年3月			評価: 達成○ 未達×			取組	
No.	環境経営目標	運用期間目標	施策	実績	評価	コメント	次年度の取組内容
1	二酸化炭素排出量の削減	売上按分にて 1%削減 7.312 kg-CO2/10K円 ↓ 7.239 kg-CO2/10K円	・1.1に記載	3.154 kg-CO2 /10K円	○	2022年度11月分まで排出係数「0.1」の電力を購入していたことが実績に反映した。12月以降は電力供給元が変更になり、排出係数も変更になったため、売上金額によるがCo2排出量も算出されている。	次項「電力使用量の削減」の取組を実行する。
1.1	電力使用量の削減	売上按分にて 0.53%削減 13.965kWh/10K円 ↓ 13.818kWh/10K円	・圧縮エア어의漏れ点検(5月、8月、12月) ・コンプレッサーの休日停止(土曜日5時～月曜日6時) ・加工機を休日停止する為の体制作り(オペレータ育成)	5.080 kWh/10K円	○	5・6・8月に単月で実績が計画を上回ったが、年間では計画を達成できた。コンプレッサーの休日停止事項については、週末の夜勤終了時(9:00)に1台停止を実現できた。	コンプレッサーの効率的稼働 ・エア-漏れ箇所(機械、エア-ガン、配管)の修理、修繕。 ・機械(研磨機)へのエア-供給部にバルブを取り付け、非稼働時にエア-供給を止める。 ・既存エア-ホースを耐久性の高いホースに交換。 ・夜勤終了時(毎日)、コン
2.1	一般廃棄物排出量の削減	売上按分にて 0.5%削減 0.0370kg/10K円 ↓ 0.0368kg/10K円	・廃棄物の分別と確認 ・リサイクル化出来るもの検討と運用 *注意喚起の表示を作成掲示 *機密文書の定義と処理方法を再検討	0.026 kg/10K円	○	単月で実績が計画を上回ったこともあったが、年間では達成できている。2022年に掲げた施策については、十分な活動ができなかったため、次年度も継続する。	・廃棄物の分別と確認 ・リサイクル化出来るもの検討と運用 *注意喚起の表示を作成掲示 *機密文書の定義と処理方法を再検討
2.2	産業廃棄物排出量の削減	売上按分にて 0.5%削減 0.765kg/10K円 ↓ 0.761kg/10K円	・廃プラの産廃業者を変更し、正確な排出重量を把握する。 (マニフェストは発行されるが、分別を変えることで再利用可能)	0.494 kg/10K円	○	年間で計画を達成できた。取り組みについては、既存業者との調整が付かず、次年度に持ち越しする。	・廃プラの産廃業者を変更し、正確な排出重量を把握する。 (マニフェストは発行されるが、分別を変えることで再利用可能)
6	R社クレーム件数低減(件数)	4件 ↓ 3件以下	・工程内寸法チェックの強化 ※チェックシート作成 ・セルフチェック作業 セルフチェックポイントの標準化	0件	○	昨年度同様、流出防止から発生防止の活動が主になり、客先品質が向上している。	品質向上が環境にも配慮できることを踏まえ、取組みを継続していく。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用される主な環境関連法規等は次のとおりである。

適用環境関連法規等	適用される事項(施設、物質、事業活動等)	状況
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(金属クズ、廃プラ、廃油等)	○
騒音・振動規制法	コンプレッサー	○
水質汚濁防止法・浄化槽	排水、浄化槽	○
消防法(危険物)	少量危険物	○
フロン排出抑制法	エアコンの点検	○

環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟はありませんでした。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

全体評価と指示内容

2022年度は、緩やかではあるが景気回復の兆しが見え、当社売上も増収となった。売上が増えたことは、大変喜ばしいことであるが、それに伴いエネルギーの使用量自体は増えてしまった。

しかしながら、Co2排出量の削減目標値については、2022年10月までノンカーボン電力が使用できていたこと、目標数値換算を売上基準としていたため、結果として大幅な削減を達成することができた。

2023年度も、引き続きエネルギー事情が不安定であり、2022年11月からは、通常の電力に戻ってしまったことなど、短期的に改善は厳しいと予測をしているが、今後も電力使用量及びCo2削減の目標を達成してくために、まずは従来の方針やルール、管理の履行を基本として全社で徹底してください。

生産現場では、不良を作らない、適切な生産数、材料や購入品の管理等、生産効率をあげることが、結果としてエネルギーや資源の使用を減らすことに繋がると思います。また、廃棄物再資源化のため、分別を徹底しているが、排出量自体を減らす事にフォーカスし、省資源で高効率のモノづくりを、コミュニケーションを密にして各部署で実行することを期待します。